

宿田 これもきっと、自然栽培のなせる業なのでしょうね。この農業は、関心を持つきっかけはどのようないいだらいいですか？

日。素晴らしい！農園の自然栽培の野菜などを販売するお店や、その野菜を使った料理を出すお店です。運営、さらには障がい者の就労支援目的にした事業も手がけられていますね。おも高木さんにとってはきっと、自然な取り行きといふことなのでしょうな。

株式会社Seed(瀬源ネイチャーズ)の野菜はすべてが無農薬・無肥料・一等地栽培に加えて農福連携による商品。ながでも高木さんがいるから思い込める正在地が食用はおすぎだ。小粒・中粒・大粒のタイプがあり、7月下旬から10月下旬に収穫される。株式会社Seed(瀬源ネイチャーズ)の野菜の販売先などの情報は同社ホームページで。



SHUKUD
Makio

TAKA
Akira

種れた小粒の食用はおさきを食へ
（二）おさく、今まで食べなことのある
食用はおさきとはぜんぜん違う味わ
いです。ミルキーなコク、爽やかなせ
味と酸味、なんどもいえない余韻…
すごくおいしい…

日はぜんぜんダメ。散々でした。2年目になつて少し、3年目からもうやくちょっといか(笑)。そういうつまづいてるうち、「うちの野菜の味を気に入ってくれた」という料理人が現われたりして、有名ホテルの契約栽培も今年で5年目になります。いろいろなことがありますが、どうして農業をしていく、毎日がとても楽しい。幸せです。

高木 なるほど。自然な成り行きで
この道路に」という道のりなのです
ね。高木さんのお人柄が垣間見える
気がします。

植田 似曾者と聞かし者といったふうに分けるのが、どうも「まるで」その程度や観念が二段階化している気が。そもそも人にはみな個性があります。個性とか多様性を認めることが、自然の循環に沿っているのだと思います。

高木　自然栽培の専門はおずかを、
札幌の名物に育てたい。生はもちろらん、オリジナルの加工品も作つて。失敗は当然のつま物ですから、それも楽しみながり。

高木 ほくもう思います。これもまた一種で、障がい者の就労支援に関わるようになります。障がいの方々の素晴らしい仕事を振りに日々感動しています。農業には草取りから収穫、摘果、加工など、実にさまざまな一連の仕事があります。ひとりの長所をきちんと理解すれば、その素晴らしい能力の活かし方があると思います。

高木 ほくもう思います。これもまた一種で、障がい者の就労支援に関わるようになります。障がいの方々の素晴らしい仕事を振りに日々感動しています。農業には草取りから収穫、摘果、加工など、実にさまざまな一連の仕事があります。ひとりの長所をきちんと理解すれば、その素晴らしい能力の活かし方があると思います。

高木 自然栽培をばくになり深化させたいと考へています。野山の山菜を手本に。自家採種を積極的に。用はおさず、大玉トマトなど、ミニトマト、園芸用トマトを主力にした多品目栽培を継続させます。そしてつ、夢があるんです。

農業者の高齢化による農業の衰退という実情もあります。日本の農業者の平均年齢は65を越えています。そのため、より多くを食べてくれたり、よく自身もこうして農業をしていて心身ともに健康を実感できる。栽培を続けて、本当にやがてからも続けます。

八九は何かを聞いてづけている。

は田から成り、車を切る、

A black and white portrait of a man with a warm smile. He is wearing a traditional wide-brimmed straw hat, a light-colored, textured hoodie, and dark trousers. His hands are in his pockets as he stands in a field of tall grass. In the background, there's a dense line of trees and some rustic wooden structures, possibly a fence or a small building.

Talk.
YES! 農

いま農業には
より大きな可能性が
内包されていると信じています。
—宿田

自然栽培の食用ほおずきを、
れんの名物に育てたい。

おいしいはしあわ
高木 晃

1959(昭和34)年、札幌市生まれ、同市在住。東京ショッピングモール営業を卒業後、25歳から26歳でニューヨークに赴き、2010年に故郷の札幌へ、自然栽培の農業を事業の中核に据え、飲食・販売店「Cafe&Shop Seed」経営、農業連携・強化がいわばオバノ経営支援事業(株式会社Seed)などを手がけ、札幌市西区小平沢の畠場に加え、今年新たに帯広別町に農場を取得し、自然栽培農業の拡充を進めている。株式会社Seed CEO、株式会社社説著者イチヤス・中澤。

宿田 牧夫
1962(昭和37)年、牛乳のせがれとして西小牧市に生まれ、北海道農業通の山農地で育つ。農業短期大学卒、出版、広告の企画・制作、全国民間音楽のストラーディーン本部などを経て、現在はブランディングおよびCD(コーポレート・アイデンティティ)のコンサルタント。ゴーバンズ株式会社取締役副社長。

より大きな可能性が
内包されていると信じています。
—宿田

会員登録／会員登録変更／会員登録変更登録確認コード：000